

附属高校全般に
お問い合わせは
kfkou1@kyokyo-u.ac.jp
また、スーパーサイエンス
ハイスクールに関しては
kfkou4@kyokyo-u.ac.jp

スーパーサイエンスハイスクール 指定書

京都市立科学未来館高等学校

スーパーサイエンスハイスクール
指定書(平成14年4月10日文部科学
省決定)に基づき本校を平成14
年度から平成16年度までスーパ
ーサイエンスハイスクールに指定します

平成14年5月23日

文部科学大臣 遠山敦子

毛利衛さんから熱
いメッセージを受
けました。(於:日
本科学未来館)本
校は日本科学未来
館とも連携を視野
に入れています。



世界を救うために
任してください!



緊張した面持ちで厳粛した気持ちで認定証
を授かる斎藤副校長

自然科学コース(2期生)の カリキュラムができました。

右の表を見てください。上段
は、普通コースの理系の場合で
下段がスーパーサイエンスハイ
スクールのカリキュラムです。
緑色が数学、オレンジ色が理
学の科目です。特徴は、明らか
に単位数が増えています。理科
では興味・関心を大切にするた
めに実験・実習の比重を高めて
置いています。SSHでは、

さらに、手厚い指導を心掛け
ています。数学は、理科の授業
と先導技術への実用性の橋渡し
として数学の特性である「論理
的思考」を極力付け加えること
を指しています。いずれも進路指
導の一つとしての志望大学合格
への対応も欠かせないと考え、
受験指導を行っております。1
年生では、応用数学・科学技

術を新設科目として位置づけしていま
す。(各科目の内容は次面に)さらに、第
2学年では、物理・化学・生物の名称をそ
れぞれエネルギー科学、物質科学、生命科
学という名の下にカリキュラムを作り、シ
ラバスも出来上がっています。(1期生は
順調に進んでいます。)数学も以前とは違
い、単元間のつながりを重視し解析学、代
数学、幾何学、統計学という視点からより
高度な数学へと進みます。

第1学年の場合

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
国語総合		世界史B		現代社会		数学Ⅰ		数学A		理科総合B		体育		保健		O C I		英語Ⅰ		家庭総合		音楽Ⅰ基礎		美術Ⅰ基礎		情報Ⅰ基礎		外国語Ⅰ基礎		日本史B		英語Ⅱ		H R	
国語総合		世界史B		現代社会		数学Ⅰ		数学A		生物科学Ⅰ		理科総合B		体育		O C I		英語Ⅰ		家庭総合		音楽Ⅰ基礎		美術Ⅰ基礎		情報Ⅰ基礎		外国語Ⅰ基礎		日本史B		英語Ⅱ		H R	

第2学年の場合

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
現代文	古典	体育	英語Ⅱ	ライティング	家庭総合	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学Ⅳ	物理Ⅰ	物理Ⅱ	化学Ⅰ	化学Ⅱ	生物Ⅰ	生物Ⅱ	地学Ⅰ	地学Ⅱ	日本史Ⅰ	日本史Ⅱ	世界史Ⅰ	世界史Ⅱ	保健	科学英語	物質科学Ⅰ	物質科学Ⅱ	エネルギー科学Ⅰ	エネルギー科学Ⅱ	現代数学Ⅱ	代数幾何Ⅰ	解析Ⅰ	ライティング	英語Ⅱ	体育	古典	現代文

科学者は英語
使えて当たり前の
コミュニケーション力を

第3学年の場合

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
現代文	古典	体育	保健	リーディング	ライティング	情報日	日本史 A	物理Ⅱ	数学Ⅱ①	数学C	物理Ⅱ	H R																				
							世界史 B	化学Ⅱ	数学Ⅱ②		化学Ⅱ																					
							地理Ⅱ	生物Ⅱ	生物Ⅱ																							
							政治 経済	地学Ⅱ	地学Ⅱ		地学Ⅱ																					

現代文	古典	体育	保健	リーディング	ライティング	情報日	統計Ⅱ	現代数学研究	日本史 A	エネルギー科学Ⅱ	エネルギー科学Ⅱ	H R
									世界史 B	物質科学Ⅱ	物質科学Ⅱ	
									地理Ⅱ	生物科学Ⅱ	生物科学Ⅱ	
									科学の 地学	生物科学Ⅱ	生物科学Ⅱ	

これからの科学者は科学を使う
倫理観・歴史観が必要です。

(1)

ふぞく

ときどきの学舎に

京都教育大学附属高等学校

TEL 075(641)9195

FAX 075(641)3617

平成十四年 七・八月 第2刊 (第2号)

8月24日(土)

午後

大学コンソーシアム(キャンパスプラザ京都)

入試説明会の実施のお知らせ

京都市大学のまち交流センター

SSH認定証授与式に行 って来ました!

5月23日(木)24日(金)
の両日、東京の独立行政法人国
立オリンピック記念青少年総合
センターで文部科学省主催のス
ーパーサイエンスハイスクール
認定証授与式が催されました。
遠山文部科学大臣は、国会審議
中で欠席でしたが、報道プレス
にも配置され注目を集めているこ
とに驚きました。この模様はNH
Kの全国ニュースにも取り上
げられました。午後からはそれ
ぞれ分科会があり、本校の理
念、取り組みに高い評価を受け、
西日本唯一の国立としてまた全
国のリーダー校として強い使命
感をおぼえました。24日(金)
は、日本科学未来館へ行き、先
導科学の一面を科学技術者の
方々に説明・講演して頂き、感
動をいたしました。館長を兼ね
ておられる毛利衛さん(スペ
ーシャル宇宙飛行士)にお会
いで、スーパーサイエンスハ
イスクールへの激励を受けまし
た。(写真)

我々は、これからの科学者は理科・数学の教養や確かな学力を身につけるために、「情報力」情報を使いこなすこと、「国際性」英語コミュニケーション力、「倫理性」科学の歴史観や倫理観の育成の一助を求めています。大学受験一辺倒に走り過ぎて大学合格が全ての人生と考えた大学入学生達に、虚脱感を持ってた無気力な若者がかなり増えてきているという大学側・企業側からの警鐘を聞いています。受験のテクニックは素晴らしいものを持っていますが、学問的な素養や独創的な探求心に欠けてきているということです。やや革新的なカリキュラムの中で、できるだけ数学・理科以外にも工夫をし、組み替えた内容となっています。カリキュラム表参照。加えて情報科目によって各教科に情報科目を反映させる取り組みを考えています。

「自分の進路は理系」という人は、「自然科学コース」(SSH対応)は最適です。数学・理科を3年間通じてたっぶり、余裕を持って学べます。これが学びたい人のための最高の教育機関。大学に通じる道です。その上で、授業の中心が、防衛立てて物事を考える力、それを的確に伝える力を養います。これは一生を支える力です。

斉藤副校長より



「自分の進路は理系」という人は、「自然科学コース」(SSH対応)は最適です。

授業 One Scene

応用数学 I
ではただ話をきいて
いるという
授業がありません。
いつも何か活動してきまし
た。手を動かして複雑なフラクタル図形を描いたり、折り紙で箱を折ったり。またコンピュータシミュレーションで意外な図形の出現に驚いたこともあれば、5角形を描くために1時間コールドにらめっこしてできたときには飛び上がって喜んだこともありまし

自分でもやってみて自分で考えるということに大切になっている授業です。(授業主担当者 山本彰子先生)



授業風景



(授業教材)



授業担当 川村康文 先生

科学技術



レーベンフックの顕微鏡

他校にない素晴らしい実績それが附属高校の1つの伝統となり、多くの支援者を生んでいます。

大学教授・助教授	96名
うち国立研究所及び国公立	69
そのうち東京大学	2
そのうち京都大学	20
そのうち大阪大学	5

主な医療機関勤務	
京都大学附属	1
京都府立医科大学附属	2
他国公立関係	23
院長・医局長等役職	48

少しずつ世の中が変わりつつも、根強い閉鎖志向。行きたいのだけれどもなかなか合格しにくいという声が大変多いです。今後本校の入試も変化していきます。選抜の軸は「社会の教養」となり得るのか！そんな人材・逸材が附属高校には似つかないのではなからうかと思えます。

主な国立大学の合格者総数			
東京大学	京都大学	大阪大学	神戸大学
76名	1105名	273名	354名

私達の高校は、昭和四〇年四月に開校されました。今年で三十八年目になります。開校当初から、一学年約二百名の小規模高校です。卒業生総数は、七千五百人を超えます。左の表は、過去に合格した主な大学の総人数です。ある年度には、1学年で70名名の京都大学合格者(全体の40%近く)が出ました。

更なる充実へ
進路保障体制
現在、附属高校では、補習体制がしっかりとおりまわっています。各自の進路に合わせて、対応し、受講者も年々増えてきています。今年度も実施されています。ものあるいは昨年度実施されたものを挙げますと、国語・数学・英語のO級進学補習、土曜日午前補習、地歴・理科の放課後補習が平常補習として実施され、夏期補習(7月下旬〜8月上旬)・冬期補習(12月下旬)・春期補習(3月下旬〜4月上旬)が各教科で実施されており、さらに進学に必要とした補習を「通コース」にも設置し、進路実現に向け取り組んでおります。

多くの中元企業の財界人の中に卒業生も！
全国はもうろく京都の代表的な企業の社長級の職にも就かれ、御活躍中です。附属高校に對しての熱い眼差しで応援して頂いております。



高校生活で欲張りな程に多くのことを吸収し、己の力と化していく「附属生」の姿には、頼もしささえ感じます。「勉学以外に何もしなくていい」のではなく、高い志を持った中学生諸君の入学を期待したいのです。将来有為になる人材も多く、環境は恵まれているといえます。

クラブ活動でも、今年度男子バレーボール部は、近畿大会に出場します。附属高校の生徒は勉学のみならず、学校での活動に多くの時間を費やします。情熱を注ぎ、何事にも悔しなく、前向きに取り組む文武両道の校風が存在します。1つの考えに偏らず、バランス感覚を持つていこうと思えます。





放課後、本学大学教授を囲んで数学の専門講義や遊びも

今1つの動きとして、科学クラブ設立があります。目指しているものの1つとして、数学オリンピックや物理オリンピックでの全国大会出場から世界大会出場。また、ロボットコンテストのように鋭い感性でのアイデア育成を狙っています。

授業の中でも実際に大学の先生に定期的に来て頂いて、「ここが本校にない最大の利点」、知的欲求が刺激されるシステムを構築中です。左の写真は、その一環ですが、日常の授業に飽き足りずもっと高い教養を身につけたい人（海外では「飛び級」）にとっては、大学・企業での専門知識は興味のあるところで、放課後や土曜日も大学教授が立ち会って頂ける体制を了解して頂いております。



「ものづくり」の一つとしてロボットコンテストへの参加

課外活動（仮称 科学クラブ）の動き

- 7月19日～ スペースシャトル 宇宙教育実験プログラムによる船内と本校の生徒との通信観察実験（発射延期中）
- 8月10日 けいはんな学研都市サイエンスキャンプ こどもサイエンススクールにて1ブース 温暖化実験（中学生向けに実施）
- 8月24日 酸性雨実験予定（キャンパスプラザ京都）

行ってきまあ～す！

- 7月 6日～ カンボジアグローバルアクション ミッションエコ科学実験 川村康文先生（本校教諭）
- 発表しまあ～す！

- 7月24日～ 国際数学教育会議日本大会で、SSHの活動を世界へ
- 数学オリンピック 本年度卒業生（東京大学医学部入学）全国大会出場

応用数学・科学技術・生物の動き

- 4月11日 本学大学教務陣によるオリエンテーション
 - 5月16日 科学技術講演会（武田薬品会長 東京大学名誉教授）近畿地方見聞センター
 - 6月 7日 折り紙を活用した自己相関（応用数学）
 - 11日 振り子の共振実験（科学技術）
 - 18、25日 京都大学教授 東野先生 「ライフサイクル アセスメント」
 - 27日 カオスゲームn角形への拡張（応用数学）
 - 7月 2日 わたし電子づくり実験（科学技術）
 - 15～17日 臨海実習「ウニの生態観察」人工授精から（生物）
- 今後の実現可能な計画（日時未定）
- ① 関西電力発電所及び他施設の見学研修（科学技術）
 - ② テレビ会議システムによる海外高校主との研究発表（応用数学）
 - ③ 相手校（タイ・オーストラリア・中国・ドイツの予定）
 - ④ 白川英樹（ノーベル化学賞受賞者）先生の講演

今年の主な活動実績と今後の取り組みについて

それでは、実際の活動になっていくのか御紹介いたします。主なものを一部抜粋しております。

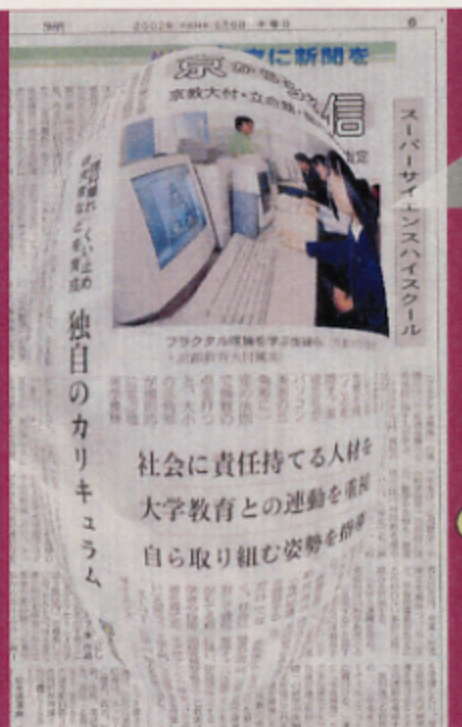
Super
Science
High
School

Kyoto



少し気になる国立大学情報

国立大学の再編統合及び法人化の中で、特に教員養成系大学は厳しい風雨にさらされています。また、単科の教育系大学の附属学校・園には廃校・廃園あるいは、単独私学化のうねりも飛び交ったものです。本学の京都教育大学も違わず、生き残りのために色々と施策がなされてきているのは事実です。新聞報道にありましたように、滋賀大学との統合への具体的な運営は現在なされています。加えて、京都工業繊維大学・滋賀医科大学と



マスコミからも注目的。左は京都新聞の記事から他朝日新聞、毎日新聞、NHKからも取材をお受けしています。

残念！立命館高校さんの下へ尾身環境大臣が来られてSSHの生徒に対しての激励と講演をされるそうでお誘いを受けました。誠に残念。臨海実習へ行っている最中です。



の統合への話題もあり、結論はそれぞれの大学の思惑もあり流動的であることは確かです。結論は、平成16年度には新しい大学（国立法人という名で国の管轄）としてスタートしなければいけないというルールです。ですので近々出るでしょう。

もし、統合が成立した場合は、本校はそれら総合大学の附属高校としての存在の可能性が高まり、教育環境がより一層整う方向性が出てきます。

また、本校の存続が危ういというのなら、何故SSHという国家プロジェクトが本校に認可されたのでしょうか？

本校には、大きな財産（特に人的）があり、これから生き残っているネットワークが構築され、大きな共同体として存在していくことになるのです。

次の紙面には、本校を取り巻く環境が本校だけのものではなく、多くの企業や大学・研究所、自治体からの支援・連携により大きな組へと変わっていく背景を提示しています。

今後施設の更なる充実や教育環境の改革へ向け施策が展開されることでしょう。

地域からの確かな信頼・支持のされる高校へ

日本の未来を担う高校へ

伝統を重視しながら新しい附属高校へと生まれ変わる。正に時代の息吹を感じられる高校でありたい。

「附属文明開化の光」

